

広電グループ経営総合3カ年計画(中期経営計画)

経営総合3カ年計画の枠組み

「広電グループの旗印(パーパス)」のもと、役職員がベクトルを揃えて結束してグループの力を最大化することにより、持続的な成長を目指しています。

広島ワクワクを創造する

大切な人に出会う幸せや喜び、こころ豊かで快適な暮らしに貢献し、魅力ある広島を創り出していくことが広電グループの存在意義です。

- 私たち広電グループは
- 人々の快適で安全・安心な移動を担い続けます
 - 新たな価値を求め生み出します
 - 社会の一員としての責任を果たします
 - 地域で選ばれ、社員が誇れる存在であり続けます

- ①安全・安心なサービスの提供
- ②交通サービスの価値向上
- ③新たな収益機会獲得への挑戦
- ④人材の育成と働く環境の整備
- ⑤安定した財務基盤の確保・強化
- ⑥SDGs、ESGの推進

事業計画実行のための取り組み

積極的に人材育成をしています

- 安定した労働力の確保に加え、多様な能力や幅広い視点を持つ人材を活かしてイノベーションを生み出すことを目指しています。
- 社員としてあるべき姿、目指すべき姿を示す「人財ビジョン」のもと、グループ全体の持続的な発展に向けて人材育成に取り組んでいます。



- 社内兼務者制度
- 社内起業家育成プログラム
- リスクリテラシー宣言
- デジタル人材の獲得・育成

事業計画実行には社員の力が不可欠です。そのため優秀な人材の育成や働きやすい環境づくりにも力を入れています。

働きやすい社内環境整備に努めています

- 社員のニーズや価値観の変化を尊重し、本人のライフスタイルに合わせた多様な働き方の推進やワークライフバランスの実現に努めています。
- 社員一人ひとりの力を最大限発揮できる社内環境整備に取り組んでいます。



- フレックス勤務制度化
- 一部副業・兼業の容認

◀企業内保育所「ひろでん まめっこ保育園」

社会的な課題やリスクへの積極的な対応

ESG 環境

- ハイブリッドバスの導入
- EVバスの導入
- 架線レストラムの研究
- ボランティア清掃への参加
- ペーパーレス化の推進
- グリーン電力発電事業の検討

ESG 社会

- まちづくりに向けた他者との共創
- わかりやすく使いやすい運賃制度
- DXの推進等による業務効率化
- 多様な働き方の推進
- 自動運転技術の研究
- 超低床車両の導入

ESG ガバナンス

- 運輸安全マネジメントの推進
- サステナビリティに関する開示情報の充実
- RDE・PBR等収益指標のベンチマーク確立に向けた検討
- 関係会社統括機能の強化
- 政策保有株式の縮減検討
- リスクマネジメントの推進

広電グループは「サステナビリティ基本方針(2021年12月策定)」の下、SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」を重要度の高い取り組み目標とし、SDGsを始めとした社会的目標の達成に向け積極的に取り組んでいます。

会社概要

(2024年3月31日現在)

- | | | | |
|----------|--|-----------|-----------------------------|
| 1. 設立 | 1942(昭和17)年4月10日 | 5. 主な事業内容 | ●鉄・軌道事業
●自動車事業
●不動産事業 |
| 2. 本社所在地 | 広島市中区東千田町二丁目9番29号 | 6. 従業員数 | 1,625名 |
| 3. 資本金 | 23億3,562万5千円 | | |
| 4. 売上高 | (2023年度)
(連結)30,466百万円
(個別)20,517百万円 | | |

広電グループ各社

連結子会社

広電建設株	広島市を中心としたエリアで土木・建築業を行っています。
広電エアサポート株	広島空港地上業務のほか、保険代理業を行っています。
備北交通株	広島県北部の庄原市・三次市エリアでバス事業を行っています。
株広電宮島ガーデン	山陽自動車道下り線で宮島サービスエリアを運営しています。
宮島松大汽船株	世界遺産の島「宮島」と対岸の宮島口を結ぶ航路を運航しています。
株ヒロデンプラザ	「広電ポウル」「広電ゴルフ」「広電ゴルフ in DOORS」を運営しています。
株グリーンバース・ヒロデン	三原市のゴルフ場「グリーンバースゴルフ倶楽部」を運営しています。
エイチ・ディー西広島株	広島市西区己斐エリアを中心にバス事業を行っています。
広島観光開発株	宮島弥山観光の足「宮島ロープウェイ」を運行しています。
株交通会館	広島市内で不動産賃貸業を行っています。
芸陽バス株	広島県中央部の東広島エリアを中心にバス事業を行っています。
ひろでんモビリティサービス株	都市型ハイヤーやAIオンデマンドバスを運行しています。

持分法適用会社

大亜工業株	電気通信工業業を行っています。
株たびまちゲート広島	旅行業・地域商社事業を行っています。
株広島バスセンター	「広島バスセンター」「アクア広島センター街」を運営しています。



広島ワクワクを創造する



COMPANY PROFILE
Hiroshima Electric Railway Co., Ltd.



電車事業

Profile

1912年11月23日に開業した広島電鉄の路面電車は、市内各所を結ぶ市内線、安芸の宮島の対岸の宮島口までの宮島線と路線を伸ばすなか、1945年8月6日の原爆による惨禍を受けました。108両もの車両が被災し全線不通となりましたが、3日後には己斐から西天満町の間で運行を再開し、市民を勇気づけたと伝わります。被爆からの復興を遂げた電車でしたが、自動車社会の到来で一転廃止の危機に陥りました。しかし、軌道敷内諸車乗り入れ禁止など関係機関の協力と、ワンマン運転の実施など経営改善により再び市民の足として見直されました。その際、他都市で廃止された路面電車の車両を購入し、そのままの塗装で走らせていることから「動く電車の博物館」と呼ばれるようになりました。近年は、他の交通モードとの結節点の改良や、国産完全超低床車両の導入などを進め、新たな時代に対応した交通システムの実現に向け努力を続けています。



5200形 グリーンムーパーアイベックス

Topics

2025年夏頃、広島市とJR西日本の広島駅南口整備事業に伴い整備される新駅ビルの2階に、広島電鉄の路面電車が乗り入れます。JRの改札口と同一平面で乗り換えができ、駅前大橋ルートの整備により、広島駅から中心部紙屋町への到達時間は4分短縮され10分となり、都心の回遊性向上にも寄与します。



広島駅完成予想図(2026年度末)資料提供:西日本旅客鉄道株式会社 ※バスはイメージであり変更する場合があります。

Data(2024.3.31)

営業キロ	鉄道 16.1km 軌道 19.0km
車両数	292両
従業員数	562名
売上高	5,971百万円 (2023年度)

バス事業

Profile

広島は国産初の乗合バス(横川〜可部)が走った街ともいわれていますが、広島電鉄のバス事業は、1938年に市内バスを運行していた広島乗合自動車(株)を合併し自動車部を創設して、その歩みを始めました。戦時下の国策により中小のバス会社を統合して郊外部に進出、戦後はさらに山口県東部や島根県へも路線を広げました。これらは高速道路網の整備に伴い、広島と、山陰の各都市(浜田・松江・米子)、県内の各都市(呉・三次・庄原)を結ぶ高速バス路線に受け継がれています。少子高齢化や人口減少の時代を迎え、バス事業は広島市・呉市を中心とした都市圏と近郊部の路線が中心となり、運賃・制度をニーズに合わせて見直すことにより、他事業者や他の交通モードとの連携を進めています。現在、ICTを活用した乗務員管理のシステム化などにより、営業拠点を統合することで経営の効率化を図っています。



新型ノンステップバス

Topics

2024年3月に大型電気バス(EVバス)を導入しました。走行中の温室効果ガスを削減し、環境負荷の低いEVバスを導入することで、カーボンニュートラルの実現と、持続可能な公共交通の実現を目指しています。

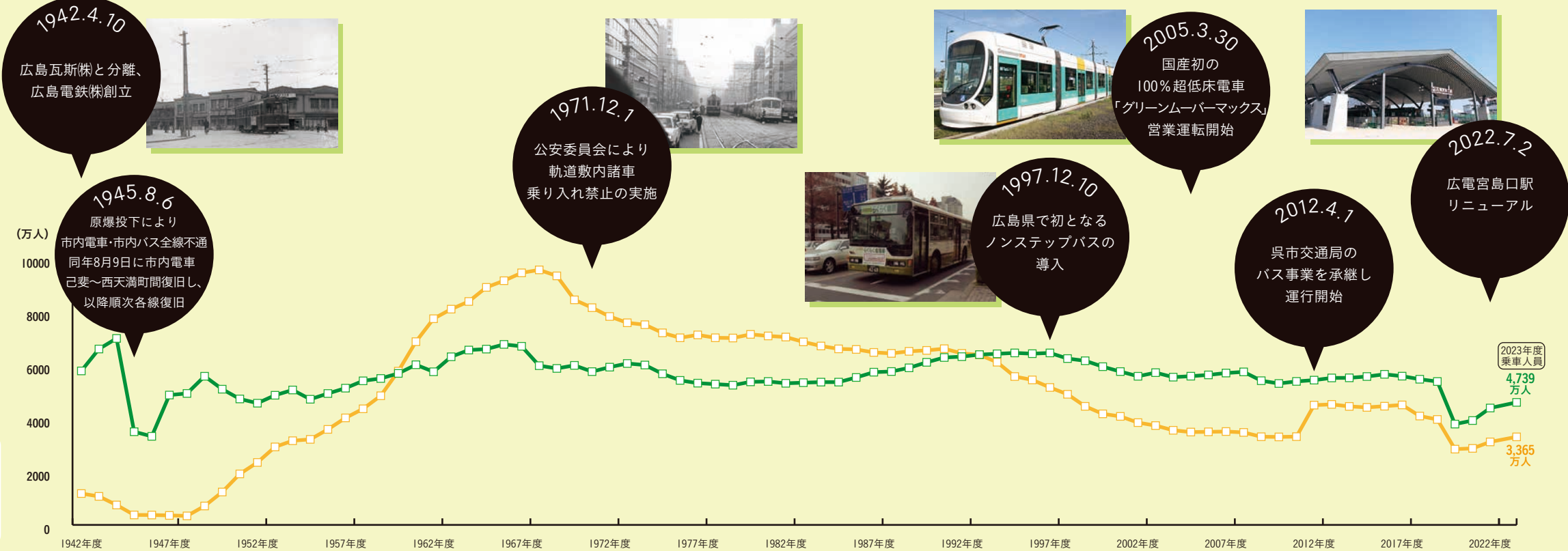


Data(2024.3.31)

営業キロ	1,267.9km
車両数	520両
従業員数	835名
売上高	8,728百万円 (2023年度)

広電のあゆみ

- 1912.11.23 創業**
(市内電車開業)
- 1922.8.22 宮島線開業**
(己斐〜草津)
1931年2月1日に宮島線全線開通
- 1938.2.7**
広島乗合自動車(株)を合併、自動車部創設



不動産事業

当社の電車・バスのネットワーク、そして信頼あるブランド力を活かし、宅地・マンション等の販売事業や、オフィスビル・商業施設等の賃貸事業、市街地再開発・Park-PFI事業など幅広く事業展開しており、広島市の都市開発の一翼を担っています。近年では、ファミリータウン広島楽々園での再開発を進めており、2024年12月には県内初となるイオンタウンが開業されるなど、魅力ある広島の街づくりに貢献できるような開発を推進しています。マンション事業は、利便性及び快適性を追求した様々な居住環境の提供に努めており、2024年以降は、「アンヴェール己斐本町」、



「ザ・広島フロント」等の分譲を推進するなか、「ザ・広島フロント」においては、高断熱で省エネ性能に優れた「ZEH-M Oriented」を採用し、環境面にも配慮したマンション事業を推進しています。賃貸事業は、広島市のビジネス、商業、交通の中心地である紙屋町・八丁堀エリアに、複合オフィスビル「広島トランヴェールビルディング」、「スタートラム広島」などを保有し、様々なワークスタイルに対応するオフィスを提供しています。また、パブリックスペース「KOI PLACE(コイプレ)」や宮島口の観光商業施設「etto(エット)」を開発するなど、賃貸事業の多様化を進めています。



街・地域の賑わいづくり

地域の活性化、交流人口の拡大、回遊性の向上、移動機会を創出するための取り組みを実施し、まちづくり・にぎわいづくりに積極的に参画しています。広島都心部で活動しているエリアマネジメント団体や、2021年4月に設立した官民連携のまちづくり組織「広島都心会議」に参画し、中心となって関係者と連携したまちづくり・地域全体の活性化、地域の経済発展に向けた取り組みを行っています。



Park-PFI事業への参画
旧広島市民球場跡地のPark-PFI事業に構成法人の一社として参画し、2023年3月「HIROSHIMA GATE PARK」、2024年8月「ひろしまスタジアムパーク」がオープンしました。



KOI PLACE(コイプレ)
広島西広島に隣接したエリアに、憩い・つろぎ・交流の拠点としてパブリックスペースを整備・運営するとともに、イベント等の実施により地域の賑わいを創出しています。



地域商社事業
株式会社広島銀行及び中国新聞社と連携し、「株式会社まちが集う広島」内に地域商社事業部を立ち上げ、人々が集う拠点の創出、運営等を行っています。



広島国際空港(株)への出資
16社共同で2020年11月に広島国際空港(株)を設立し、インバウンド・アウトバウンド需要の創出と獲得により、地域経済の活性化・地域創生を促進しています。